



冬の使者・白鳥に 愛情を注ぐ人たち

リポーター樋口昌子 (東台1丁目)



今シーズンもまた、長木川にたくさんの白鳥がやってきました。白鳥の白い羽の色が、雪の白と溶け合っている風景は、本当に美しいものです。この白鳥たちに惜しみ無い労力と愛情を注ぎながら、毎日世話をしているのが、

「大館白鳥の会」の皆さんです。その方たちのご苦勞は大変なものだと思います。会長の神林正樹さん、理事の阿部留蔵さん、近藤多次郎さん、木村和一さん、そして事務局担当の石川久晴さんにお話を伺いました。

白鳥のえさはパンやうどん、ネギを除いた野菜などで、一日二回、午前十時と午後三時に与えています。会員の皆さんは、白鳥の数や観賞にくる人たちが与えているえさの量を考えながら、自然の生態系を壊さないように心掛けて、え付けをしているという事です。

また、白鳥にも上下関係があるようで、力の弱い者は、なかなかえさを口にできません。そこで、えさを与える時には弱い白鳥の近くに投げてやるというた心配りも必要だそうです。

えさ代は、会員や市民からの寄付金などで賄われます。「北海道の人からも寄付がありました。多くの人が応援してくれているのが、励みになります」と神林会長。

水面の氷を割り

えさ場をつくる

また、えさ場をつくるために、川に張った氷を割る作業もしています。白鳥は音に敏感なので、

ブルドーザーなどの機械は使えません。このため、手作業で氷を割っていきます。氷が張るぐらいの寒い日ですから、白鳥を



会の皆さんに熱心に質問

驚かさないように気を配りながら作業するのはひと苦勞だそうです。

白鳥のつらい思い 放っておけません

大館の市街地を流れる長木川、人や自動車が行き来し、身を隠す

「大館白鳥の会」昭和五十七年、長木川に飛来する白鳥の保護育成を目的に、有志が結成しました。飛来地の環境整備や保全、え付けのほか、夏の間、えさの収集と保管に努めるなど、一年を通じてボランティア活動を行っています。

場所もない、白鳥にとっては住みにくい場所です。それなのに、なぜ白鳥はこんなところまで、飛来するのでしょうか。

「人間がどんどん自然を壊してしまつたからです。白鳥たちがいるべき場所を、住めないような環境に変えてしまつたのです」と神林会長。会員の皆さんも「白鳥たちは、すごくつらい思いをしてここまで渡ってくるんです。そんな白鳥たちを放っておけますか？」と口をそろえました。その言葉には、白鳥に対してだけでなく、地球上に生きるすべてのものに対する深い愛情が感じられました。

- 1・深夜、車のヘッドライトで白鳥を照らすのを止めてください。白鳥は眠る必要があるので、白鳥が安心して眠ることができるようにしてください。
- 2・花火をあげたり爆

休息の場を奪わないで 「大館白鳥の会」

竹を鳴らしたりしないでください。白鳥は音に敏感です。出たところからハンターもいないので、鳥の休息の場を奪わないでください。